

ベトナムの排水処理環境整備に挑む ～『バイオトイレ』と『新浄化システム』の活用～

国際協力機構（JICA）は、2015年度中小企業海外展開支援事業の一つである「普及・実証事業」の案件として、北海道旭川市の株式会社 正和電工（せいわでんこう：橋井 敏弘社長）が提案した『『バイオトイレ』と『新浄化システム』を活用した環境改善技術の普及・実証事業』を採択しました。

この提案は、同社が東南アジア・ベトナム社会主義共和国クアンニン省を対象地域として、①便器内に敷き詰めたオガクズをスクリューで攪拌し、ヒーター加熱により細菌や微生物等を活性化することによりし尿を浄化する「バイオトイレ」と、②生活排水を沈殿作用により固液分離したり、木炭に付着する生物膜が有機物を分解する生物的浄化作用等を行う「新浄化システム」を有機的に結合して設置・運用することにより、対象地域の生活排水を主とする水環境の改善を図るとともに、使用済残渣を有機肥料として活用することにより高価な化学肥料への依存の軽減にも寄与するものとして期待されています。



「普及・実証事業」は、中小企業等からの提案に基づき、中小企業等が持つ優れた製品・技術等が途上国での開発へどのように適合し有効性を高められるか、実証活動を通じてその普及方法を検討することにより、開発途上国が抱える課題を解決するために中小企業が持つ製品・技術を活用するための事業計画立案等を支援することを目的としたものです。このようなJICAによる『中小企業支援事業』は2012年に始まり、北海道から多くの案件が採択されています。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 北海道（札幌）市民参加協力課 中野、筧

TEL 011-866-8333

e-mail : Nakano.Satoshi@jica.go.jp, Kakei.Katsuhiko@jica.go.jp